

編集後記

今年は秋が短く、突然冬が到来した感がしますが、皆様方の地方はいかがでしょう。紅葉狩りを楽しまれましたでしょうか。仕事に追われそんな気分でなかった方が大半かもしれませんね。

JFIA Vol.19, No.2 もお蔭様で順調に仕上がりました。巻頭言は今任稔彦先生（九州大）、Prof. E.A.G.Zagatto (Brazil) に、総説は川久保進先生（山梨大）にお願いしました。また2001年 ICAS の FIA シンポジウムに招待された Prof. S.M.Sultan (Saudi Arabia) からも力作が届きました。FIA 研究懇談会褒章委員会で選考した FIA 各受賞者が 11 月 30 日に決定されましたので、受賞者及びグループの紹介記事を掲載しました。立派な研究業績を積み重ねてこられた諸氏にお祝い申し上げます。

7 月 30 日の暑い盛りでしたが、千葉大学 小熊幸一先生のお世話で第 5 回 FIA 技術講習会が開かれ、全国から多くの参加者がありました。その様子を講師の板橋英之先生（群馬大）に報告いただき、また参加者の岡村さん（日本総合科学）と高橋さん（ロート製薬）からは受講体験談を寄稿して頂きました。大変雰囲気の良い講習会でしたが、講師の先生方が若かったことが最大の要因でしょうか。

編集委員の樋口さん（エフ・アイ・エー機器）のご尽力で久しぶりにユーザーズレポートを掲載できました。FIA は各事業所で利用されておりますが、企業秘密もあり、公開が難しいと聞きますが、FIA 技術を差し障りない範囲で共有・供与していただき、FIA の更なる普及・発展が図れればとの願いで設けた欄です。ユーザーの皆様の積極的なご協力と話題提供をお願いいたします。

研究論文は 6 篇を掲載しておりますが、全て英文論文で占められました。JFIA のインターナショナル化は編集委員会として喜ばしいことです。特に最近では国外からの投稿が増えており、国際的にも評価されつつあることを実感します。その分審査員の先生方に多大な負荷をかけておりますが、熱心にご協力いただき感謝しております。

学会情報、FIA Bibliography は田中秀治先生（徳島大）、受田浩之先生（高知大）に引き続き、またトピックスは水口仁志先生（山形大）にお願いしました。最新の情報収集の場としてお使いください。

2002 年も残すところひと月となりましたが、2003 年は JAFIA, JFIA とも 20 周年を迎えます。研究を始めたころと今日の自分を照らし合わせても 20 年という時の流れとともに JAFIA, JFIA の果たしてきた役割・発展には目覚しいものを感じます。2003 年の FIA 研究発表会・記念式典は本水委員長のお膝元岡山で行われることに決まりました。盛大な会になるよう会員の皆様で盛り上げて頂きたいと願っております。よい年をお迎えください。

JFIA 編集委員長 酒井 忠雄（愛知工業大学）